

平成21年度3年生皮膚科伊藤担当分試験問題

I. 各文章を読み()内にその疾患名か、設問の答えを書きなさい。またその疾患を別紙カラー写真から臨床写真(A～S)と組織標本写真(1～12)を選んで[]に記入しなさい。(臨床写真と組織写真は同一の患者さんのものではありません)・・・まず写真プリントに診断名を書いておくと回答が早い。

1.皮膚良性腫瘍のうちでは頻度が高く、一般的には()と間違えて説明されることの多い腫瘍である。切開して内容除去しても多くは再発し拡大するので全摘出する必要がある。

この腫瘍は()で、その臨床写真は[]で、組織は[]である。

2.この腫瘍は、良性腫瘍に分類されている。顔面に好発することが多く、2～3ヶ月で自然に消褪することもあるが、時に非常に拡大するものがあり、その場合は手術適応である。

この腫瘍は()で、その臨床写真は[]で、組織は[]である。

3.短期間にこの皮膚腫瘍の多発と皮膚そう痒症を伴うと()と呼ばれ、内臓悪性腫瘍の合併率が高い。

この腫瘍は()で、その臨床写真は[]で、組織は[]である。

4.湿疹様紅斑や白斑として始まり、後に湿潤、びらん性局面を呈する。進行すると局面内に小腫瘍がみられ、所属リンパ節転移が生じる。初期では()と誤診されることがある。

この腫瘍は()で、その臨床写真は[]で、組織は[]である。

5.転移しやすく、悪性度の高い腫瘍で、皮膚、粘膜、眼のほか稀に脳軟膜に生じる。この腫瘍の診断のための検査では、()は、禁忌とすべきである。

この腫瘍は()で、その臨床写真は[]で、組織は[]である。

また、最近では、ダーモスコープでの診断が有用とされており、その写真は[]である。

6.皮膚癌手術の中では最も多い。約85%は顔面に生じる。一種の過誤腫で、転移は極めて稀である。局所侵襲性は強く、骨まで浸潤する例もある。

この腫瘍は()で、その臨床写真は[]で、組織は[]である。

また、最近では、ダーモスコープでの診断が有用とされており、その写真は[]である。

II. 正しい組み合わせに○をつけよ。(正解は複数あります)

- a. 結節性硬化症－皮膚に白斑を伴う
- b. 結節性硬化症－常染色体優性遺伝
- c. von Recklinghausen病－café au lait斑
- d. von Recklinghausen病－神経線維腫
- e. Klippel-Weber症候群－三叉神経第1枝領域の単純性血管腫

III. 正しいものに○をつけよ。(正解は複数あります)

- a. フォンテイン分類の4度とは、潰瘍や壊死を伴うものをいう。
- b. 分層植皮は、生着しにくいだが、生着後の色素沈着・拘縮が少ない。
- c. 骨・腱の露出部は、植皮の適応ではなく、皮弁を用いる。
- d. 糖尿病性神経障害による足潰瘍は、足趾先端にみられることが多い。
- e. 悪性黒色腫の視診による鑑別診断のABCDのDは、非対称性である。
- f. 褥瘡の最も生じやすい部位は、仙骨部である。

IV. 下肢静脈瘤で結紮療法が適応となるのはどれか。

- a. クモの巣状静脈瘤
- b. 網目状静脈瘤
- c. 側枝型静脈瘤
- d. 伏在型静脈瘤
- e. 深部静脈血栓症